UTO ニットだより from Minamiaoyama

VOL. 30 2009 秋

ＵＴＯの青山ショップが開店しました。メーカーならではの訳あり品コーナーも開設しました。

普段、ほとんどお伺いする機会がなくご無沙汰のお店や友人知人への近況報告を兼ねて、ＵＴＯのこと、ニットのことをより知ってもらいたいと思い、２００１年から書き始めたこの通信も３０号になりました。

この通信の『ニットの話』がきっかけで、『カシミヤとニットの話』という初めての本を繊研新聞から出すことができたのは予想外の成果です。

毎回、何を書こうかと悩みます。

拙い文章ですが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

ツマグロヒョウモン

【ＵＴＯ青山ショップ開店】

東京南青山骨董通りの中ほど、メゾン青南ビルの１０階。そうです。当社のショールームをショップにしました。

小さな店ですが、外の眺めは抜群ですよ。

月曜日～金曜日　一一：〇〇～一九：〇〇

（土日祭日、来店予定の折は前々日までにご一報頂ければ開店します）

実際に手に取って、カシミヤならではの肌ざわりを実感して頂き、作り手と会話しながら、ゆっくりショッピングができる店にしたいと思っています。今年展開のカシミヤ全色をご覧頂けます。どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

【ＵＴＯのアウトレット・訳あり品】

ニットのオーダー。ニットに詳しい人は『ニットは一型、何百枚・何千枚も作るのが常識。一枚一枚作ったら十万円以上になってしまう』と難しさをご存じです。そのニットをＵＴＯでは熟練の匠たちが日本国内で一枚一枚丁寧にお作りし、低価格で提供しています。

カシミヤ素材は生き物ゆえ、もの作りはパーフェクトというわけにはいきません。と言っても、ご注文で高いお買い物をされるお客様の立場になればミスは許されません。心を込めて作った分、お嫁に行きそびれた娘は可愛く、何とか嫁入りさせてやりたいのですが、ご注文のお客様に２枚買っていただくわけにはいきません。展示会サンプル品は現物の何倍もの神経と手間をかけて作ります。そんな訳あり品等をお安く提供したいと思います。ご理解いただける方に着てもい、嫁入り先が出来れば嬉しく思います。

（訳あり品は青山ショップと当社ホームページ他、当社指定の店で購入可能です）

ＵＴＯ　カシミヤ１００％
ワイドリブ縦縞カーデガン

No. 11-1055　¥58,000.+TAX

ニジウスのワイドリブで縦縞を表現しました。
手横の熟練の技術で編み上げた衿に高級感があふれます。

カシミヤ１００％・配色襟付きジャケット

No. 11-1052　¥58,000.+TAX

細ボーダーのリブ衿と袖口、裾、ポケットの配色がとってもキュートで、スポーティにもエレガントにも着こなせる高級感溢れるカシミヤジャケットです。

エアカシミヤ１００％　ボトルネック

No. 51-1070　¥19,000.+TAX

カシミヤ１００％の糸を特殊加工して編まれたこのエアカシミヤは、とろけるような肌触りで、肌着のように一枚で着れる至福の逸品。
５色展開

【南青山界隈】　ＵＴＯはこんな街から発信しています

お江戸郊外の渋谷川

のどかな川には水車が回っていたという

この『南青山界隈』のコラムを書き始めて青山周辺の話題が登場すると俄然気になるようになりました。好きな池波正太郎等の剣客商売や鬼平犯科帳など物語の中に青山が登場すると、現在のどこら辺のことかと興味が湧き、つい古い地図で調べたくなります。

たとえば、現在の地図で、表参道交差点から青山通りを渋谷のほうへ向かうと、宮益坂から急な下りになります。下りきったところが明治通りで渋谷駅があります。その渋谷駅を過ぎると今度は道玄坂ののぼりです。

江戸末期、嘉永６年（１８５３）の江戸切絵図の東都青山絵図では、今の表参道交差点の目印になるのが善光寺です。善光寺は江戸時代からほぼこの位置にあり一番の目安になります。

善光寺前の青山通りはそのころは大山道とか大山街道と呼ばれていました。

その大山街道の宮益坂を下ると渋谷川という川が流れていて道玄橋という橋がかかり、橋を渡って今の道玄坂の登りになっていました。

現在の地図ではこの渋谷駅の下流から渋谷川が地図に現れてきます。渋谷警察の向い側です。

コンクリートに覆われた渋谷川は天現寺辺りから古川と呼ばれ、芝を通って日の出桟橋と竹芝桟橋の間から東京湾に注ぎます。

渋谷川の源流のひとつは新宿御苑辺りで、千駄ヶ谷を通り、今のキャットストリートを流れて、渋谷の手前は明治通りを流れていたようです。明治神宮には今も清正井と呼ばれるところから湧水がこんこんと湧いていますが、この湧水も渋谷川に流れ込んでいて、渋谷駅辺りにはＮＨＫのある高台から宇田川が流れ込んでいました。今でもパルコの辺りの住所は宇田川町です。

江戸末期のこの絵地図では、川の両岸は百姓地とか畑や田が多くお江戸の郊外ののどかな風景が想像されます。原宿は穏田（おんでん）と呼ばれ水車小屋があったようです。葛飾北斎の富岳三十六景にこの穏田の水車小屋という絵がのこされています。大きな水車が飛沫をあげて回り富士の遠景が望まれる絵です。北斎の三十六景に選ばれるぐらいですからさぞかし良い眺めだったんでしょうね。

現在は渋谷より上流の水路は地下に埋設され蓋をされて（暗渠と言うそうです）道路等になって姿が見えないのはちょっと残念ですが、あったらあったでどぶ川だったりして失望するのかも知れませんね。

東急東横店はデパートには欠かせないデパ地下がありません。これは東横店の下が渋谷川で地下が作れなかったのが原因だったとか聞いたことがあります。川はどうなっているんだろうと興味がわき、また、ちょっと心配になります。

株式会社ユーティーオー　〒107-0062 東京都港区南青山5-16-3メゾン青南10階 TEL:03-3498-2230 FAX:03-3498-2406 E-mail:uto@uto-knit.com URL:www.uto-knit.com

＊　ファッション販売員のための　ニットの話　＊（三十）

リンキングの話　Ⅰ

ニットは縫製までも伸び縮み

タートルネックなどのかぶりのセーターを着るとき、『この小さな丸いネックの開きが、布帛だったら絶対に頭が入らないだろうなぁ』と思うことはありませんか？

伸びるニットと伸びない布帛の大きな違いの一つですが、伸びない布帛ではネックの一部を切り開いて頭が入る状態にしてボタンやファスナーで閉じるようにしますね。

一方、ニットのほうはそのままかぶってもネックが伸び、頭が入ったら縮まります ね。いつも普通に行っている動作なので当然のことのようですが、それにはそれなりの仕掛けがあるのをお気づきでしょうか？

そうです！ネックのゴム編みですね。このようなネックのパーツには伸び縮みさせる為にゴムのように最も伸び縮みするゴム編を使っています。しかし、そのゴム編も普通にミシンで縫いつけたら縫い目が固定してしまいますのでゴム地が伸び縮みしてもネックは広がりません。そこで登場するのがリンキングです。

布帛の縫製は伸び縮みしない生地と、伸び縮みしない生地をミシンで動かないように縫い付ける。一方ニットのリンキングは伸び縮みする編地どうしを縫い合わせて伸び縮みする編地のようにする縫製の方法なんです。

ニットの世界では、縫い合わせることはリンキングすることが普通ですので、ミシンで縫い合わせることを本縫いと呼んでいるぐらいです。

ちなみに、頭がスムーズに入る天巾は、引っぱって３０センチ、ぐるりで６０センチが目安です。

ひと目ひと目正確にリンキングするには根気と熟練が必要です

熟練を要するリンキング

織物の布に比べると、ニットの編地はハイゲージと呼ばれる比較的編み目の細かい１４ゲージや１２ゲージの編み目でも比べ物にならないくらい粗く、３ゲージなどの編み目に至っては極端に表現すると穴ばっかりです。

ニットの編地を網に例えて考えると理解しやすいと思います。そんな編地を縫い合わせるわけにはいきませんよね。そこで登場するのがリンキングです。

（リンキングとは英語のリンクする、繋ぎ合わせるという意味ですので当然か）

リンキングの方法は、ずらりと並んだリンキングマシンの針にドッキングさせる両方の編地を１本１本の針にひと目ひと目刺してつなぎ合わせます。熟練のプロはいとも簡単に目を拾っていきますが、目落ちをさせないようにひと目ひと目刺すのはとっても大変です。何回かやらせてもらったことがありますが、これがメチャメチャ難しいんです。細かな編み目に針を刺すんですから、目は寄るし、肩は凝るし、手に汗が出てくるし。素人がやったら何倍もの時間をかけてもなかなか上手くいきません。失敗して目落ちして何回もやり直したり、引っぱりすぎると編み目が汚くなってしまいます。リンキングこそ熟練の技です。

このリンキング作業は今のところ人間がひと目ひと目拾って刺していくしか方法がないんです。残念ながらリンキングが出来る熟練者が高齢化してどんどん少なくなっているのが現状で、生産が海外に移って工場が閉鎖したり倒産したりして仕事自体が少なくなって仕事が途切れた機会に辞めてしまう人が多いんです。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

各駅停車の旅

旅が好きで最初に就職したのが旅行会社で、主に海外を駆け回っていました。どんな旅も好きですが特に鉄道の旅が好きです。

僕にとっては鉄道は旅の原点のようなもので、高校を卒業し九州から東京に出てくるとき、出来るだけ多くの処を訪ねたくて、そして長く列車に乗りたくて、島原から各駅停車の列車で１週間ぐらいかけて上京しました。

当時、長崎からは寝台特急『さくら』『はやぶさ』や寝台急行『雲仙』などがありましたが、早く着く為に特急券や寝台券を買うという気持ちは全く頭にありませんでした。もちろん高価な飛行機など論外です。でも毎日の通勤列車は僕でもうんざりですよ。

旅は遠いところほど旅情が深まりますが、出張に重なるせいか新幹線は殆んど旅情を感じません。新幹線を乗り継いでローカル線に乗ったとたんに『旅に出た！』と嬉しくなります。

僕の列車の旅は基本的には、一日中のんびり車窓を眺めて過ごします。出来るだけ各駅停車で。一応は外を眺められる日没までが原則です。急ぐ旅でもなく、一応は時刻表を調べますが、その日の気分で行き先を決めるという行き当たりばったりのいい加減な旅行です。

４年前に旅した北海道は印象深いものでした。初日は、山形で仕事を済ませて秋田で泊まって、翌日奥羽本線で青森まで行き青函トンネルを潜って北海道にはいり、北海道７日間乗り放題の切符を使って思うぞんぶん列車を堪能しました。７日目に青森に帰ってきたら一日時間があったので、陸中海岸をトコトコ下りて仙台まで出て新幹線で帰ってきました。

一昨年は、自宅の武蔵小金井から各駅停車で一日かかって白馬まで行き、その後富山から列車とバスで能登半島の先端まで行って白川郷と高山を回って帰ってきました。出発するときは最初の白馬しか頭になかったので旅が終わって自分でもビックリです。

もちろん毎回、カミさんもお誘いするんですが、こんな話を聞いているので、応えは１００％『ケッコウ（ノー）』です。ま、こんな旅に一緒に行く人はいませんよね。自分でも変わった奴と自覚していますから。

その代わり、列車に乗っていると、時々カミさんからの携帯が鳴って『今、どこ？』、どこどこと答えても『ふう～ん』と僕の体のことなどは気を使いながらも、『一日中電車に乗って、なにが面白いんだか？』と全く興味なさげです。

世界のホテルを旅する（三十）
元旅行屋のお勧め　ウィーン・オーストリア

ホテル　シェーンブルン

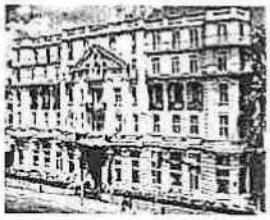
名前の如くウィーン郊外のシェーンブルン宮殿の入り口のすぐ横にあるホテルです。

世界遺産のシェーンブルン宮殿は、ハプスブルグ家のオーストリア帝国が最も栄えた頃に作られた広大な宮殿です。ウィーンに来た人なら必ず訪れる観光地で、モーツアルトが六歳の時に、あのマリーアントワネットの前でピアノ演奏をしたと言われるエピソードがある宮殿です。

ヴェルサイユ宮殿を模して造られたと言われるエレガントな建物ですが宮殿の内部はギョッとするほど派手な装飾で、よくもこんな空間で生活できるもんだと感心してしまいます。僕は一晩も泊まったら逃げ出すでしょう。

このホテル　シェーンブルンの良さはなんと言ってもこの宮殿と緑の公園に隣り合わせているのでとっても静かなことです。騒々しい都心に泊まるよりずっと快適で、朝の散歩は最高です。

ここに泊ったのは、青少年国際音楽祭に参加したときで、学生達と一緒でした。都心のホテルは高いのでリーズナブルで環境の良い郊外の宿をリクエストして取ってもらいました。この音楽祭はウィーン市が主催で、世界中からアマチュアの音楽家達を集めて普通では経験できない、そしてウィーンでしか出来ない夢の舞台を提供して、音楽の都ウィーンをアピールすることです。



コーラスのグループなどのちょっとした発表会が歴史のある有名な教会だったり、練習にウィーンフィルの本拠地、楽友協会（ムジークフェライン）や国立オペラ座の舞台を使わせてくれたり、音楽家だったら『練習にしろ、あの夢の舞台に自分が立っている』という夢をかなえてくれる心憎い演出がいたるところに込められているんです。

歓迎のレセプションが市長舎の大広間で行われました。ウィーン市が主催ですから主催者のウィーン市長夫妻の優雅なワルツで始まるオープニングでした。

驚いたのが、参加した外国の少年少女達みんながワルツを踊れることです。小学生ぐらいの子供も軽やかに楽しそうに踊っています。驚きと羨望の我々日本人達は『練習して来たのかなぁ』と、うらやましがりながら、殆どが壁の花。

そんな日本人達を、『踊りましょう』と積極的に誘ってくれるんです。始めは恥ずかしそうに踊って？いたメンバーもワルツとはいえないような踊りで皆本当に楽しそうに踊っていました。

『踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損々』は、世界共通でした。